



市史へんさん



落葉の散り敷く季節になりました。一段と日が暮れるのが早くなり、昼夜の寒暖の差もだんだんと大きくなり、少しずつ冬の訪れを感じます。

さて、先月の市史講座には多数の方にご参加いただきありがとうございました。栗津温泉開湯 1300 年にちなみ、温泉にまつわる民俗について、体験談も交えながら、民俗学的な視点からご講話くださいました。その中から幾つかご紹介します。

第85回 市史講座

『温泉の民俗 ～栗津温泉を中心に～』

講師：小林 忠雄氏（加能民俗の会会長・小松市史専門委員）



会場：小松市公会堂

☆ 温泉の歴史

温泉の歴史は古く、その始まりはシラサギやシカ、キツネなど動物にまつわる開湯伝説で知られるが、高僧や山伏などに発見されて始まった温泉も多い。そもそも田圃仕事を終え、温泉に浸り、体を休めたことに始まるが、その場所は、鎌倉期には湯治場として確立され、その効果については貝原益軒の『養生訓』の中で取り上げられている。温泉を明白に定義したのは、江戸後期の医師、宇田川榕庵(ヨウアン)が最初で、『舎密開宗(シャミカイリウ)』の中で、温泉の性質にも触れ、4種類あると明記している。

☆ 栗津温泉とおっしょべ祭り

養老2年(718)に白山を開山した泰澄大師は、白山権現の霊告により源泉を発見した。その時道案内をしたのが笹切源五郎で、その次男雅亮(カリーウ)法師が源泉を守り子孫に伝えた。ここに関いた湯治宿が法師で、当主は代々「善五郎」という名を受け継ぎ、現在46代目である。このあたりの温泉の特徴は、総湯(湯宿の外にある共同浴場)が必ず各温泉にあり、その総湯を湯宿が取り巻き、客は湯宿から総湯へ通えるようになっている。

栗津温泉は、明治40年(1907)に国鉄栗津駅開業を機に急速に発展し、その後、更なる温泉客誘致のために、栗津大王寺の薬師如来を祀る行事だった「湯のまつり」を、開湯を祝う「おっしょべ祭り」に変更した。祭りでは、江戸後期から伝わるお末と竹松の恋物語を歌った「おっしょべ節」による輪踊りの他、額見町の虫送り太鼓を改良した「加賀太鼓」を温泉芸能として新たに加え、「おっしょべ祭り」は輪踊りと太鼓の祭りへと発展を遂げた。

☆ 温泉の民俗

明治期に五右衛門風呂が出現すると、土地持ちの大きな農家では風呂を建て、10軒一組で湯番を決め、持ち回りでもらい湯をした。共同浴場の始まりである。ただ当時は父権制社会で、風呂に入る順番があり、男性→子供→お婆さん→お嫁さんと決まっていた。また、湯番の仕事は重労働だが、1番のメリットが大人数が入ると、入湯後の湯垢が2~3cm溜り、この垢を田や畑の肥料として使うことができた。



市史講座アンケート結果 (33名回収)



【講座はいかがでしたか?】

- ・ 分かりやすかった 16人
- ・ ほぼ理解できた 15人
- ・ 勉強になった 7人
- ・ 興味深い内容だった 6人
- ・ また是非参加したい 6人

【年齢】

- ・ 80代以上 7人
- ・ 70代 17人
- ・ 60代以下 9人

【性別】

- ・ 男性 28人
- ・ 女性 5人

【ご感想】

- ・ 温泉全般の理解が深まった。栗津温泉に親しみを感じた。
- ・ どのようにして温泉を利用していたかを理解できた。
- ・ 北陸の温泉(総湯)の特徴が際立っているのがおもしろい。
- ・ 全国の地名と温泉が楽しかった。
よりもっと全国の温泉巡りをしたくなった。
- ・ 栗津温泉の歴史を調べていたので参考になった。
- ・ 開湯伝説を周知させることに企業も力を入れるべき。

【ご希望】

- ・ 何故温泉文化は衰退したのか。歴史を踏まえて検証したい。
- ・ 『新修 小松市史』の各編を、内容を見ながら説明してほしい。

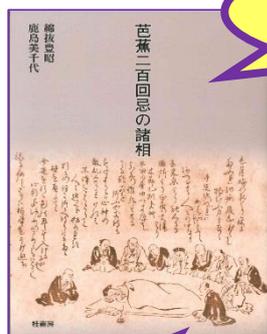


<事務局 10月の活動状況>

- ・ 10月1~31日 教育関係(小学校沿革史)資料調査
- ・ 10月1,10,13,18,25日 教育編原稿打合せ
- ・ 10月4日(木) 通史(中世)部会
- ・ 10月4日(木) 新丸村文書資料調査
- ・ 10月4日(木) 教育関係(町史)資料調査
- ・ 10月7日(日) 社会運動関係資料調査(県立図書館)
- ・ 10月8日(月) 市史講座
- ・ 10月12日(金) 干拓事業関係資料調査(土地改良区)
- ・ 10月19日(金) 教育関係調査(日末小学校)
- ・ 10月26日(金) 教育部会

<事務局 11月の活動予定>

- ・ 11月1日(木) 干拓事業関係資料調査
- ・ 11月24日(土) 亀渕家文書資料調査
- ・ 11月29日(木) 通史中世部会
- ・ 11月29日(木) 近現代部会
- ・ 11月30日(金) 教育部会



市史講座でもおなじみ綿抜先生の本が発刊されました

『芭蕉二百回忌の諸相』 著者 綿抜豊昭・鹿島美千代

本書は、現在では取り上げることの少ない江戸期の伝統を引き継ぐ「旧派」にスポットを当て、「二百回忌追善俳句集」とおして、その活動の様子を探り、二百回忌での作品も紹介する。

お買上の方には
おまけ付き

【仕様】A5判 223頁
【価格】2,500円+税

11月20日まで期間限定販売
お求めの方はお早めに!

<11月のカレンダー>

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

は小松市史編纂事務局が閉室しています。

小松市史編纂事務局 (小松市立図書館 2階)

- ・ 住所 〒923-0903 小松市丸の内公園町 19 ・ TEL 0761(24)5315 ・ FAX 0761(22)9763
- ・ E-mail hensansitu@city.komatsu.lg.jp
- ・ URL <http://www.city.komatsu.lg.jp/shishihensan/index.html>